

つぶやきがんちゃんの

生活知恵袋



Vol. 54



齋藤廣勝(さいとう ひろかつ)
株式会社トータルライフサポート代表取締役
・CFP®認定ファイナンシャルプランナー
・1級ファイナンシャルプランニング技能士
・日本商工会議所 年金・退職金等認定講師
・住宅ローンアドバイザー
・金融広報アドバイザー



● インサップ童話「アリとキリギ里斯」

この童話は世界中で翻訳され、ほとんどの方が一度は読んだことがあると思うが、その作者や時代背景などは知られていないことも多いかもしれない。自称「童話・民話マニア」の吾輩は知りたがりの虫が起きたし、改めて調べてみると意外なことも分かってきた。童話の論評するつもりはないのだが、まあいか…。

作者は紀元前6世紀のギリシャの寓話作家で、奴隸の身分であったようだ。寓話を作る中で有名になり、その後影響力を持つようになつたとか…。

元作は『アリとセミ』だったが、ヨーロッパ北部から伝えられる過程で、セミ(コガネムシ)はあまりなじみが無い昆虫のため、ギリシアからアルプス以北に伝えられる翻訳過程で改編され、日本では『アリとキリギ里斯』となつたようだ。世界の童話の中には残酷なものもあり、翻訳の段階で子供向けに着色された童話も多いが、皆さんご存知の『アリとキリギ里斯』のあらすじはこうだ。

アリは夏の間、冬に向けて、せつせと食料を蓄えるために黙々と働いていた。一方、キリギ里斯は日中は昼寝をして過ごし、日が暮れると得意の歌を歌つて、働きもせずに遊んでばかりいた。やがて冬が到来し、遊んでばかりいたキ

今月のテーマ

「アリギ里斯」??の生き方を考える…！

「アリギ里斯」の生き方”、“なんじゃそりゃ”と言われそうだが無理もない。これは、私が作った新種の生き物なのである。そして、こう生きたいと思える生き方をする生き物だ。

いきなり小難しい話になると思うかもしれないが、仰々しく考えるよりも、自然体で“こんな風に生きたいものだ”ということと一緒に考えてももらえないだろうか。何も考えずに気の向くままに行動し、夜が明けたから起きて、お腹が空いたら飯を食って、疲れたら休んで、夜になったら寝る。江戸っ子のように、「宵越しの金は持たねえぜ」とばかりに今だけを考えて生きていく…。ある意味、自然な生き方かもしれないが、現代社会ではそうはいかない。

社会の一員として暮らす以上、一員としての役割や義務も存在する。高度に発展した人間社会における生活は、ライフラインのサービスや設備、そして身の回りの電化製品などの機能もめざましい程の進化を遂げてきた。洗濯物を放り込んでスイッチポンで一丁上がり。ぐるぐる回る奇妙な物体が部屋中を駆け巡り掃除をする。確かに、生活の質も大きく変化し、快適な生活を手にしたのかもしれない…!?

もちろん、「便利さ・快適さ」を否定するわけではないし、ここまで来た生活の質を後戻りさせようとも思わない。しかし、このような生活は本当に得たものだけだろうか？

物が不足する中では、僅かなものを分け合い、助け合う中で、人ととの繋がりが安心感をかもしだしていた。不便さの中からは人間本来の持つ力「工夫や知恵」などを生みだしてきたはずだ。恒常化した至れり尽くせりの「便利さ・快適さ」は、何かを置き去りにし、大事なものを失いかけているような気がしてならない。

かつて、家族でキャンプを楽しんだころを振り返ると、電気も水道も無いテント生活は、不便な中で様々な工夫も生まれたし、家族間の役割分担や助け合いを必然とした。不便な生活そのものを楽しむことができたものだ。最近のキャンプは、炊飯器を持っていってご飯を炊くそうだが…。

自らの力で生き抜く力や知恵を、人間力を失わないためにも、改めて意識をしないといけないのでないだろうか。

リギリスの食料は底をついてしまつ。食べ物に困ったキリギリスはアリの家を訪ね、食料を分けてもらおうと物乞いをする。アリは、「あなたがこうなつたのは、冬の備えもしないまま遊び果てていたからでしょ」と戒めるが、キリギリスのことを哀れみ、食べ物を分けてやり、キリギリスは反省と相成り、メテタシメデタシとなる。

しかし、原作に近いもう一つの結末は、「夏の間ずっと歌っていたのだから、冬は踊つたらどう？」と追い返してしまう。そしてアリから食料をもらひえなかつたキリギリスは、餓死してしまう。

●アリとキリギリスに学ぶ

多くの物事は表裏一体を成し、どちらとも解釈できてしまつものだが、この童話にも二つの寓意がある。

一つは、キリギリスのように将来の危機への備えを怠ると、その将来には困つてしまふことになるので、アリのように将来の危機に備えた準備をしておかなければならぬといふもの。もう一つは、生き物である以上いつかは終わる命、食料蓄積のみで生を終えたアリより、夏のいい季節を楽しみ、謡歌したキリギリスの方が善とされるというやつ。また、貯め込むだけに執着する、アリのような生き方にも疑問を投げかけるというやつだ。

●どつちを選ぶか…！

夏の間のいい季節に、やがて訪れる冬の蓄えのためだけに働き続ける生き方。先のことはさておき、夏のいい季節を精一杯に楽しむ生き方。さてあなたは、「どつち、…」

と、言っておいて言うのも矛盾するが、世の中には、二者択一、表か裏か、右か左か、究極の選択、などと性急な回答を求められることが実

に多い。もちろん、緊急時の迷つていられない判断も存在するが、多くの物事は簡単に決められただけではない。右でもなく左でもなく真中があつてもいい。「パパとママとどつちが好き」の質問が愚問であることは、皆さんもご承知の通りだ。

さて、「アリとキリギリス」どつちの生き方を選びますか？

●自分で決める

人それぞれに、価値観や考え方、大切にしたいものと想いは当然に異なるはずだし、違つて当然だ。それは、親子であろうが夫婦であろうとも変わりはない。もちろん、ここで人生観の押し売りをしようなどとは到底思つてもいいなことを申し添えておく。ただ、冒頭にも触れたように、現代社会の中で生きていくには他人との関わりや、公共のサービスなどを無視はできない。

一定の生活費コストは、一頃から比較しても格段に多くなつてていることを考えれば、アリとキリギリスのどつちの生き方を決めつけることはできないが、ひとつ言えることは、今を考え、将来を展望した生活生計をしなければならないことだけはほつきりしてくる、ということだ。

●「アリギリス」を目指して

物語に出てくる、夏のいい季節、私たちの人生に置き換えると現役世代で、やがて訪れる寒い冬は、現役を引退した老後と置き換えるかもしない。

アリのごとく、夏のいい季節を仕事に明け暮れ趣味・旅行はそつちのけ、家族との関わりも個人の時間も犠牲にし、ようやく訪れた退職時にはお金は残つたけど、健康も気力も残つていかつたということになりかねない。

かたや、キリギリスのようにお金と時間を浪費し、やがて訪れた冬（老後）を目前にしたときには、何の蓄えも準備も出来ていなかつたということになりかねない。

私たちの人生は、夏だから、今だからこそ出来るこことや、やっておかなければならぬことがあるし、働けるうちに一定の蓄えと準備もしておかなければならぬ。であれば、アリでもなくキリギリスでもない「アリギリス」の生き方をしたいと思うのである。

「アリギリス」として生きるために、将来を見据えて今を考えねばならない。まさに生活設計が必要なのである。

またしても雪の季節がやつてきた。地球温暖化と言われながらも雪の量は多くなっている気がするし、雪による建物の災害も多くなっている。来月号は災害に備え、火災保険の点検と補償内容を考えてみよう。

